



昨日、全校あげて大掃除をしました

一生懸命に掃除をすることだけで悟りを開いた人～おシャカさまの十大弟子の一人チューダ・パンタカ～

昨日の6時間目、全校一斉に大掃除をしました。年末には各家庭でも学校でも大掃除をします。一年のちりとほこりを取り払って清々しい気持ちで新年を迎える習慣です。今回紹介するのは、おシャカさまの十大弟子の一人チューダ・パンタカという人の話です。

チューダ・パンタカはとても勉強が苦手で、記憶力が弱い人でした。「おろかなやつ」とあだ名され、ばかにされていました。一方、兄のマハー・パンタカは頭がよく聡明でした。先におシャカさまの弟子になった兄のすすめで弟のチューダ・パンタカも弟子入りしました。ところが、4か月たってもおシャカさまの教えの一つも覚えることができませんでした。そこで、チューダ・パンタカは弟子をやめることをおシャカさまに相談します。



おシャカさまは「自分を愚かだと知っている者は愚かではない。自分を賢いと思いがっている者こそ、本当の愚か者である」と説き、彼に一本のほうきと一枚の雑巾を与えて、「ちりをはらい、あかをのぞく」と唱えさせて精舎を掃除することを教えました。その日から、チューダ・パンタカはおシャカさまのこの教えを守り、ただひたすら毎日毎日一心に掃除をし続けました。

おシャカさまの教えをまじめに守り何十年も掃除を続けたチューダ・パンタカは、ある日不思議な心境になります。落としている汚れは自分の心の汚れで、きれいに磨いているのは床ではなく自分の心だったことに気がつきます。目についた一つのちりを拾うことが自分の心中のちりを払う。履物(はきもの)の乱れを整頓するのが、自分の心を整理する。本当に落とすべき汚れが貪(とん=貪る心)瞋(じん=怒る心)痴(ち=無知の心)であることに気付き、悟りに到達しました。

この話の中から学べるものがたくさんあります。もちろん、今の時期にこの話を紹介したのは、大掃除をする機会に、掃除の効用を伝えるためです。日々の清掃活動は、学習の場を整理しきれいにすることで学習効果を高めます。また、この話にあったように心を磨いていきます。そのことが大掃除では一年分のものとして大掛かりなものとなります。冬休みには各家庭の大掃除にも貢献してください。

また、おシャカさまがどんな人にも悟りに導こうとしたことも見逃せません。百人弟子がいれば、百通りの悟りの道を示したことです。裏返せば、学びの道も真理に至る道もたくさんの方があるということです。実際、おシャカさまが開かれた仏教も現在はたくさんの宗派があり、念仏もあれば禅宗もあります。学問もたくさんの分野があり、学ぶ方法もいろいろあります。

さらに、チューダ・パンタカは掃除に専念して悟りを開きました。一意専心と言いますが、一つのことを極める、一つのことに集中することの大切さも読み取ることができるのではないのでしょうか。

最後に一つの道歌を紹介します。

「はけば散り はらえばまたもちりつもる 人の心も庭の落ち葉」

一度掃除すればこれでおしまいということは永遠になく、庭の落ち葉が次第に積もっていくように心のちりも日々積み積みもっていくものです。常に払い清めることをおこたらぬようにしていかなければなりませんね。

さあ、家の大掃除でも、何も考えずに一心に頑張りましょう。

冬休み・年末年始には「気づく力・見出す力」をつけよう

～ 2 学期終業式 校長式辞より ～

今年も残すところあと9日となりました。終業式で全校生徒のみなさんにお話しした式辞を掲載します。オンラインでは話せなかった内容の詳細も載せたいと思います。今回は、「年末年始には気づく力と見出す力をつけてほしい」ということをテーマに話をしました。私はいつも河東中生が10年後も20年後も豊かに幸せに暮らしていくことを真剣に願っています。そのために、中学生時代にどんなことを身に付ければよいかを考え続けています。今回伝えなかったのは、身の回りや日常生活の中に幸せの種がたくさんあるということです。それに気づく力を持ってほしいということです。

さて、最初に見せた4枚の写真。東京スカイツリー、新幹線、瀬戸大橋、スペースシャトルの発射台。これらに共通するものは何でしょう。いろいろありますが、今日はこの4つに共通する世界最先端の日本の技術に注目しましょう。さらにしぼると、この4つには「絶対に緩まないネジ」が使われています。

ところで、世の中に「絶対」と言えることは果たしてあるでしょうか。よくスポーツでは「絶対勝つぞ!」と言ってみたり、受験では「高校に絶対合格してやる」と言ったりしますが、本当に絶対ということがあるのでしょうか。絶対に緩まないネジは可能でしょうか。ネジの分野で「絶対」を実現したのが、株式会社ハードロック工業の若林克彦さんです。彼は“なにわのエジソン”と呼ばれる大阪の発明王です。

若林さんは、どうやって「絶対に緩まないネジ」を思いついたのでしょうか。ネジの会社に勤めていた若林さんは、いつも緩まないネジの開発を考えていました。ひらめいた日のことをこう証言しています。

『休みの日に自宅近くの大阪・住吉大社を散歩していて、鳥居の柱と、横につなぐ貫(ぬき)の継ぎ目に打ち込まれた木のくさびに目が行ってね。昔の木造建築は、くぎなんて1本も使わなくても緩まず持続してるじゃないですか。「そうや、これを応用して、ボルトとナットのすき間にくさびを打ち込めば緩まんわ」と思いついたんです。』こうして世界で初めて開発された緩まないネジがハードロックナットです。



神社の鳥居のくさびーこれをネジに応用することに気づいたわけです。この緩まないネジの技術は、今や国内だけでなく、イギリスの国鉄レール、韓国やオーストラリアの鉄道、台湾の新幹線「台湾高速鉄道」にも使われています。

話は変わって、冬の夜空には満天の星がきれいです。一見、夜空の星は無作為に並んでなんの脈絡もなさそうに見えます。しかし、人類は不規則に置かれた星たちに何らかの規則性を見つけようとしてきました。英語では、constellation (コンステレーション)と言います。日本語に訳すと「星座」です。つまり、一見無意味に並んだ星空に一定のつながりを古代人が見つけて、星座としたわけです。constellation は、別の意味として「配置、集まり、集団、点と線でつながったもの」という意味もあります。つまり、人間は意味を見いだす、創り出すことができる生き物なのです。そのことで、生活に潤いをもたらしたり豊かさを得たりすることができました。

若林さんは、神社の鳥居のくさびから緩まないネジを見い出しましたし、ニュートンは木から落ちるリンゴを見て万有引力の法則に気づきました。こうした価値を見つけ出す力が人間に備わっているわけです。

しかし、そう簡単に気づくことはできません。そう意識する必要があります。みなさんも、日常生活の中でいろいろなことに気づく力を意図的に築いてください。道端に咲く同じ花を見ても、きれいだと感じる人とそうでない人がいます。同じ音楽を聴いても、同じ絵を見ても、その良さを気づく人とそうでない人がいます。親や友達のありがたさや出会いや縁といったものについても同じことが言えます。冬休みや年末年始にはぜひ「気づく力、価値を見出す力」をつけるよう意識してみてください。

最後に、フランスの作家マルセル・プルーストの言葉を紹介します。

「真の発見の旅とは、新しい景色を探すことではない。新しい目で見ることだ。」

みなさん、良いお年をお過ごしください。